

鈴声山真正極樂寺真如堂は天台宗にして、開基は戒算上人なり。本尊は阿弥陀仏の立像長三尺三寸、慈覺大師の作なり。抑此尊像は、江州志賀郡苗鹿明神より神木を大師得給ひ、此木夜毎に光明を放、怪みて割見給ふに仏形鮮にあり、故に此尊像を彫刻す。又承和五年に大師入唐ありて、天台五台山にして顕密の奥義を究、引声の弥陀經を伝て、同十四年に帰朝せり。然にかの引声の一句を失念ありければ、西方に向ひ祈誓ありしに、舟の帆に小像の弥陀香煙に立て、成就如是功德莊嚴と唱給ふ。大師感涙を止て袈裟にうつし、帰朝しこれを胎中に籠給ふ。大師在世の間は叡山常行堂に安置し給ふ。其後永觀二年の春戒算上人に、急ぎ聚洛に出て一切衆生を利益すべしと靈夢あれば、まづ雲母坂の地藏堂にうつす。又其夜の告に、神樂岡に松千本生たる所是有縁の地なりと、此靈夢に任せてこれを尋るに、白川女院の離宮なり。又同夜女院にも告ありければ、先宮中へ遷し、正暦三年の秋宣下ありて伽藍を建立し給へり。〔今の元真如堂の地是なり、夫より所々にうつし、元禄五年の冬洛陽京極今出川より此地に遷座まし〜けり〕

応仁の頃田中里の賤女此本尊に日參し、念仏を申さで心經のみ読ける、ある時礼堂に眠ければ内陣より

時過てえきなき法をすてよかし五劫思惟はたがためぞとも

真如堂如来